

乾 裕幸教授著書目録

一、著書

大坂独吟集出典考

昭和三十七年一月一日発行 発行所・高野山国文学研究会 B 6

判 紙装 88頁 非売品 挿み込み・補遺・正誤表

§はしがき／凡例／幾音独吟／素玄独吟／三昌独吟／意楽独吟／
鶴永独吟／由平独吟(1)／由平独吟(2)／未学独吟／悦春独吟／重安
独吟／あとがき

初期俳諧の展開

昭和四十三年六月二十五日発行 発行所・桜楓社 A 5判 布装

函 341頁 二四〇〇円

§はしがき／談林の中庸思想―定家的理念の屈折点―／西鶴初期
の俳風―『大坂独吟集』鶴永独吟百韻について―／資料『大坂独
吟集』鶴永独吟略註／談林俳諧の類型化―本歌・本説取をめぐつ
て―／芭蕉の等類観小考―「趣向に表と裏の事あり」(三冊子)
について―見落された芭蕉の出典／過渡期の芭蕉―周辺発句の

吟味を通して―「あしらひ」考／蕉風的表現論―姿よりしをり
に及ぶ―／「軽み」への展開／『貝おほひ』の批評性と創作性／
あとがき／索引

*昭和五十七年十一月二十日再版発行、九八〇〇円

俳諧師西鶴―考証と論―(前田国文選書Ⅰ)

昭和五十四年六月二十日発行 発行所・前田書店 B 6判 ク

ロース装 302頁 二五〇〇円

§序(野間光辰)／はしがき／談林俳諧とは何か―西鶴論の前哨
として―／『遠近集』の研究―西鶴初出俳書考(一)―／『大坂独吟
集』の研究―西鶴初出俳書考(二)―西鶴・自由の俳諧―『大矢数』
跋文を読む―／西鶴の《軽口》と惟中の《寓言》／西鶴の方法―
《心行》について―／西鶴俳諧の読み―「雪中の争」をめぐって
―／俳諧狂言説異聞―《談林俳諧と歌舞伎》序説―／大矢数の西
鶴―幻視的考察―／西鶴における詩と散文―『好色一代男』の成
立―／あとがき

ことはの内なる芭蕉―あるいは芭蕉の言語と俳諧性―

昭和五十六年四月二十五日発行 発行所・未来社 四六判 7
 ロース カバー 372頁 二八〇〇円

『俳諧のことは―序にかえて―』Ⅰ 《俳言》の論―初期俳諧に
 おけることはの問題―/へうたう/俳諧からへえがく/俳諧へ/
 なぜ俳諧なのか―貞享期からの問いかけ―『阿羅野』の時代―
 《正風体》の確立―/『ひさこ』序説―《かかり》と《かるみ》
 Ⅱ 史論としての《不易流行》論―去来における《芭蕉と芭
 蕉以前》―/Ⅲ 《乞食》の文脈―ことはの内なる芭蕉―/もう
 ひとつの《誠》―法度の俳諧と芭蕉―/《ほそみ》の論―《取合
 せ》の論―『おくのほそ道』の虚構/芭蕉の言語と俳諧性―ま
 めとして―/《付章》付合の消長―《親句・疎句》論による連句
 史の試み

芭蕉と西鶴の文学―前近代の詩と俗―

昭和五十八年二月二十八日発行 発行所・創樹社 四六判 厚紙
 装 249頁 二〇〇〇円

§芭蕉 Ⅰ 『貝おほひ』小論―かぶく歌ころ―/芭蕉と小町
 /芭蕉の「命二つ」考/芭蕉の《痕》/句のひとりあるき/発句
 と前書、その他/Ⅱ 俳言・芭蕉と日常の世界/見立て―価値の
 転換とことばあそび―/芭蕉・疎句の響/Ⅲ 文学史上の芭蕉/
 西鶴 Ⅰ 西鶴の俳壇登場/鶴永「ほとゝぎす」独吟百韻前書の

読み/西鶴「飛梅千句」への疑義/独吟俳諧と矢数俳諧/Ⅱ 俳
 諧師西鶴/Ⅲ 西鶴《俳諧と浮世草子》序説/芭蕉と西鶴 『西
 鶴名残の友』の芭蕉評/あとがき

俳文学の論―読みの有効性―

昭和五十九年三月三十日発行 発行所・塙書房 B6判 288頁
 二六〇〇円

§芭蕉の《伝記と文学》 芭蕉の生年月日について/芭蕉の江戸
 出府/芭蕉歓迎の連句―「時節無」両吟歌仙について―/「奥の
 細道」前後の芭蕉―芭蕉の《旅と文学》の一環として―/芭蕉の
 《女性》/俳諧的修辭―宗因と芭蕉の文学 宗因の《親句》を読
 む/宗因引墨考―判詞の批評性と文芸性―/宗因のことは―紙上
 に錦のえり―/芭蕉の《疎句》を読む―たとえば「むざんやな」
 の句―/歌仙の世界―芭蕉の《疎句》を読む《統》―/連句研究
 の未来/俳論書三篇―翻刻と解説 池田正式著『俳諧解邪抄』/
 田代松意著『夢助』/難波津散人著『俳諧備前海月』/あとがき
 俳句の現在と古典《平凡社選書121》

昭和六十三年七月十二日発行 発行所・平凡社 B6判 厚紙装
 カバー 341頁 二五〇〇円

§《俳》のモラル―序にかえて―/Ⅰ 古典と現代とを結ぶ俳句
 の読み/活性剤としての古俳諧/俳諧・俳句・詩/俳性としての定

型／季語の論へ1季語と歌枕／2季語の活性化／3季語と俳性／4季語と定型／〈詠む〉と〈書く〉―俳句者意識の問題として―／〈書く読者〉の文芸―現代における連句の可能性―／俳句のレトリック／〈奴ことば〉の美学／Ⅱ 松永貞徳素描／談林俳諧の意義／談林俳諧への視座／オランダ流西鶴／知識人の役割／《軽口》と《寓言》の相克／ことばの力への目覚め／西鶴五題／矢数俳諧の興行 付、西鶴の手紙／西鶴文盲の説／晩年の西鶴／たたかう西鶴／西鶴の絵巻物／芭蕉五題／芭蕉の虚像と実像／《幻術》の構造／芭蕉のことばと文学―芭蕉の存疑句／『猿蓑』の一句／『おくのはそ道』の可能性―現代からの照射―／Ⅲ 一所懸命ノンサンズな談話―夏石番矢句集『メトロポリティック』に寄せて―／俳句の《口誦》性と《片言》性―坪内稔典小論―／《負》の俳句空間―越澤和子句集『人形連袴』―／迷宮の胎藏界―西川徹郎小論―／俳諧、その可能性〈対談・廣末保〉／芭蕉の詩学〈対談・山口昌男〉／あとかぎ

俳学掌記―俳人・俳句・書物との遭遇―〈和泉選書 42〉

平成元年五月二十五日発行 発行所・和泉書院 B6判 厚紙装

カバー 260頁 三九一四円(本体三〇〇〇円・税一一四円)

§序にかえて／1初期俳人覚書 伊勢小町／南都長式子／三田浄久のこと／三昌について／和氣氏遠舟・由貞・仁兵衛／岡西惟中

の俳壇登場―宗因との出会―／俳諧点者宗因の誕生／月松軒紀子小句集／2初期俳壇掌記 池田是誰『破言魔』について／再び『破言魔』について／『俳諧熊坂』対『俳諧頼政』の因縁／『破邪頭正』合議説と季吟／『滑稽太平記』俳事年表／前句付のこと／3古典俳句評釈 前期俳諧と貞門・談林俳諧／元禄名家句選／近世名句／諸説整理・芭蕉五句／(付録)〈納著すれば則転す／芭蕉と西鶴の出典二、三／芭蕉の謎／蕪村・私の三句〉／4研究書渉猟 蕪門俳諧史の前提―富山奏『伊賀蕪門の研究と資料』―／対象への愛が書かせた本―岡本勝『大淀三千風研究』―／開かれた書物―尾形仿『座の文学』―／《座》と俳諧性―尾形仿『座の文学』・鈴木勝忠『俳諧史要』―／かみくだかれた芭蕉―山下一海『芭蕉の論』―／作品としての芭蕉書簡―富山奏『芭蕉文集』―／自己を対象化させる本―尾形仿『俳諧史論考』―／批評を生むことばとの出会―廣末保『元禄期の文学と俗』―／哲学と文学の接点―廣田二郎『蕉門と莊子』―／比類なき脇の仕事―安東次男『木枕の垢』―／西鶴と現代の架橋―廣末保『西鶴の小説』―／資料の語りに耳をすまます―森川昭『谷木因全集』―／元禄俳壇の消息―雲英末雄『元禄京都俳壇研究』―／『書く読者』について―尾形仿『歌仙の世界』・安東次男『風狂始末』―／あとかぎ

周縁の歌学史―古代和歌より近世俳諧へ―

平成元年六月十五日発行 発行所・桜楓社 A5判 布装 函
403頁 一二〇〇〇円(本体一一六五〇円)

§はしがき／第一章 歌学史における俳諧 一 周縁の歌学史―
《無心所著》の系譜／二 濱成『歌式』校本化の試み―周縁の歌
学史のために―／三 連歌から俳諧へ―方法の問題において―／
第二章 俳壇確執史の構想 一 俳壇確執史の源流―里村家の役
割／二 撰集合戦―俳諧史の幕あき／三 『俳諧之註』付紙一件
―ある師弟関係の崩壊―／四 一つの变身―難書『郡山』の性格
―／五 《連歌立》と《俳諧立》の相克―重頼・貞室確執の意義
―／六 『崑山集』編集の背景―貞徳の覇権に向けて―／第三章
矢数俳諧の濫觴と展開／第四章 理念運動としての蕉風 一
いわゆる《蕉風》―俳書の検討から―／二 蕉門俳書の生立ち―
『いつを昔』のばあい―／三 『猿蓑』の俳諧史的意義―撰集論
のとば口にて―／四 よみがえる風雅―政治の季節のなかで―あ
とがき

芭蕉歳時記

平成三年七月三十日発行 発行所・富士見書房 四六判 紙装
274頁 装丁・熊谷博人

§はしがき／歳旦吟／春／夏／秋／冬／初句索引／あとがき

*翰林書房版 平成十二年三月十五日発行 274頁 厚紙装 カ

バー オビ 273頁 本体二〇〇〇円＋税

芭蕉と芭蕉以前〈新典社研究叢書51〉

平成四年六月二十五日発行 新典社 A5判 布装 函 206頁
六五〇〇円(本体六三二一円)

§1 貞門の俳論／ことばの俳、こころの俳―貞徳の『御傘』を
読む―／『蚊柱百句』をめぐる争点―惟中反論の意義―／『天満
千句』考―西鶴俳諧法式論への先備え―／西鶴の《当流》／宗因
流のゆくえ―蕉風の一面／Ⅱ 季題主義からの脱出―仲介者とし
ての季語―／祝祭としての俳諧／『冬の日』への疑義／芭蕉の鍵
語―Ⅰ薄と饑饉／Ⅱ鳥と蝙蝠―／歌枕の想像力―『おくのほそ道』
―／Ⅲ 大坂俳壇の草分け―津田休甫小伝―／談林俳諧の時局性
／宗因流の幻想俳句／同世代の二俳人―芭蕉と西鶴―／現在にフ
ィットした文芸―貞門・談林俳諧の面白さ―／芭蕉・偶像毀し／
《軽み》と老い／初出一覧／あとがき

二、覆刻・翻刻・校註書

貞門俳諧集二〈古典俳文学大系2〉 小高敏郎・森川昭・乾裕幸校
注

昭和四十六年三月十日発行 発行所・集英社 A5判 686頁 三
八〇〇円

§ 解説／俳諧初学抄／俳諧之註／滑稽太平記

談林俳諧集一〈古典俳文学体系3〉 飯田正一・榎坂浩尚・乾裕幸

校注

昭和四十六年九月十日発行 発行所・集英社 A5判 599頁 三

八〇〇円

§ 蛇之助五百韻／物種集／二葉集／俳諧百韻風蕩禪師語路句／投盃

談林俳諧集二〈古典俳文学体系4〉 飯田正一・榎坂浩尚・乾裕幸

校注

昭和四十七年五月十日発行 発行所・集英社 A5判 648頁 三

八〇〇円

§ 解題／真門談林論争史年表／しふうちわ／しふう団返答／俳諧蒙求／

俳諧中庸安／俳諧破邪頭正／諸破邪頭正返答／諸破邪頭正返答之

評判／破邪頭正諸評判之返答白話／諸俳備前海月／ふたつ盃／談林功用群鑑

／俳諧特牛／談林軒端の独活

古俳書目録索引へ解題・索引双刊五〉

昭和四十九年九月三十日発行 発行所・赤尾照文堂 A5判 340

頁 六〇〇〇円 限定五百部発行

§ 序（大谷篤蔵）／序（三青 島居清識）／古俳書目録索引 凡

例 書名索引（例言）／人名索引（例言）／地名索引（例言）／

年次索引（例言）／あとがき

遠近集(上)〈近世文学資料類従古俳諧編26〉

昭和五十年十月十五日発行 発行所・勉誠社 大判 316頁

§ 凡例／影印編（遠近集第一冊〈春上〉）／遠近集第二冊〈春下〉

／遠近集第三冊〈夏〉／遠近集第四冊〈秋上〉

遠近集(下)〈近世文学資料類従古俳諧編27〉

昭和五十年十一月二十五日発行 発行所・勉誠社 大判 240頁

§ 凡例／影印編（遠近集第五冊〈秋下〉）／遠近集第六冊〈冬〉／

遠近集第七冊〈句引付紹巴雜談〉／解題

大坂独吟集他〈近世文学資料類従古俳諧編29〉

昭和五十一年九月十五日発行 発行所・勉誠社 大判 251頁

§ 凡例／影印編（大坂独吟集卷上／大坂独吟集卷下）／『大坂独

吟集』解題

芭蕉全句集 乾裕幸・桜井武次郎・永野仁編

昭和五十一年九月十五日発行 発行所・桜楓社 A5判 302頁

§ 寛文二年〜貞享年間（1〜358）・存疑（1189〜1342）を分担執筆

影印芭蕉連句粹 島居清・乾裕幸・桜井武次郎編

昭和五十四年十月十五日発行 発行所・和泉書院

§ 「灰汁桶の」歌仙／「八九間」歌仙を分担執筆

失数俳諧集〈天理図書館善本叢書〉

昭和六十一年七月十四日発行 製作発売・八木書店 A5判 560

頁

§ 紀子大矢数 / 仙台大矢数 / 西鶴大矢数 / 解題

西鶴俳諧集

昭和六十二年四月十五日発行 発行所・桜楓社 A 5判 215頁

二四〇〇円

§ 口絵 / 凡例 / 解説 / 連句 / 俳文 / 発句 / 連句各句索引

おくのほそ道へテキスト版

平成二年二月二十四日発行 発行所・双文社出版 A 5判 140頁

初期俳諧集へ新日本古典文学大系69 森川昭・加藤定彦・乾裕幸

校注

平成三年五月二十日発行 発行所・岩波書店 B 5判 671頁

§ 大坂独吟集校注 / 付録 連句概説 / 解説 初期俳諧の展開

榎本其角

平成四年八月七日発行 発行所・蝸牛社 変型判 170頁

近世俳諧集へ関西大学図書館影印叢書四

平成六年七月二十日発行 発行所・関西大学出版部 A 5判 布

装 函

§ 東山紀行 / はら / 傘 / 微雨の梅 / 解題

井原西鶴全句集へ蝸牛俳句文庫23

平成八年十二月十日発行 発行所・蝸牛社 新書判変型 カバー

装幀・長谷川洋子

§ 全句集 / 解説へ西鶴 / へ西鶴 / 略年譜 / 三〇〇句索引

三、共 著

西鶴へシンポジウム日本文学8 松田修・廣末保・井上ひさし・

乾裕幸・谷脇理史共著

昭和五十一年九月十四日発行 発行所・学生社 A 5判 一二〇〇円

* 西鶴における俳諧の意義へ報告

芭蕉へー芭蕉をどう読むかへ阿部完市・乾裕幸・上野洋三・桜井武

次郎・白石悌三・坪内稔典・松尾美恵子共著

昭和五十二年三月十日発行 発行所・ぬ書房 B 6判 272頁 一

八〇〇円

§ 芭蕉の言語と俳諧性 / 芭蕉をどう読むかへ座談会・進行

芭蕉物語へ蕉風のへ人と詩への全体像をさぐるへ有斐閣ブックス

白石悌三・乾裕幸編

昭和五十二年六月三十日発行 発行所・有斐閣 A 5判 275頁

一三〇〇円

§ 『貝おほひ』の世界へ歌にやはらく神心へ貞享連歌体へ辛崎の松は花より麗にてへ『曠野』の世界へ冬籠りまたよりそはん

此のはしら―『ひさこ』の世界―木のもとに汁も髓も桜かな―
／三等の文―彼等風雅のうろたへもの―

連句への招待へ有斐閣新書 乾裕幸・白石悌三著

昭和五十五年五月二十日発行 発行所・有斐閣 新書判

§はしがき／第一章 連句という文芸／第二章 連句の歴史／第三章 連句の構図／第四章 連句の式目／第五章 連句の方法／第六章 連句の興行／第七章 連句の鑑賞／付章 連句の試作／連句用語索引

新版連句への招待 乾裕幸・白石悌三著

平成元年六月三十日発行 和泉書院 B6判

*「重版にさいして」を付す。

四、句集

風葬の口笛へ俳諧句帖

昭和六十三年十月一日発行 発行所・和泉書院 B6判 カバー

118頁・五〇〇円

§俳句 エチュードI(一九五〇年)／エチュード(一九五五年)／地下系混乱(一九八三年)／石吹く笛(一九八三年)／嘘つきの時計(一九八四年)／聖ジュネの午(一九八五年)／病める哲人たち(一九八六年)／大阪ラブソディー(一九八六年)

／究極の俳(一九八七年)／悲の鼠(一九八八年)／聖胎抄(一九八八年)／清少納言(一九八八年)／連句 独吟歌仙「六月の宵」／独吟歌仙「夏樹」／西吟歌仙「花芽ゆたかに」(+ 暉峻桐雨)／両吟歌仙「鳥雲に」(+ 白石悌三)／切口上

日・独・英連句遠来の客 乾裕幸・諸澤巖・坂本悠貴雄編著

平成十一年三月二十七日発行 発行所・関西大学出版部 変型

134頁 一四〇〇円+税

§連句の意義―序にかえて―初折のはじめに